

現代社会の課題

1. 授業の目的（授業のねらい）

本授業科目は、「社会と人間」の領域では、社会問題の具体的な諸領域を事例にして、現代社会の抱える諸問題を学ぶことを目的としている。また、「自然の仕組み」の分野では、自然の仕組みへの理解を深めることで、現代社会が抱える諸課題を把握することが目的となる。

この学びは、単に社会と自然の諸問題の知識を獲得することに尽きるものではない。何故なら、私たちは、これらが、(1)机上の問題ではなく、人類がその英知を活かして解決すべき「実践的な課題」であることを理解する必要があるし、(2)自分達のジェネレーションが今後21世紀を生き抜いていく過程で、一層具体的に切実な問題として遭遇し、自らがその解決に寄与すべき諸問題であることを把握する必要があるからだ。

その意味で、ここに言う「現代社会の課題」は、私達が宮崎大学で4年ないし6年をかけて行う学びの全体をつらぬく課題意識を形成し、各自が獲得する専門的知識を現代社会の中で活かしていく展望を培うための授業科目であると言える。

したがって、この授業科目は、専門知識を包み込む、社会と自己存在の関係を自覚する科目であり、少人数で教員と対話し、学生同士の討論や発表を通じて生きた知識を獲得することを目指す。

2. 到達目標（育成する資質・能力）

- ① 具体的な知識を得て、調査・発表することを通じて、現代社会の社会科学的・自然科学的諸問題の一つないし複数を、聴講するのみならず、自分自身で調査・発表・討論した経験を有する。
- ② その作業を通じて、現代社会の具体的な問題の生き生きとした姿を、自分の思考を通じて大づかみに再現・把握する道筋を追跡した経験を有する。
- ③ 専門知識の獲得のみを課題として絶対化することなく、実社会の中での専門知識の活用には、こうした現代社会の多様な諸問題とそれを取り巻く総合的な知見が不可欠であることを自覚し、総合判断の中に専門知識の活用を位置づける意識と経験を持つ。
- ④ この成功ないしは失敗を自分の体験の中に保持し、後続する教育課程の中で学ぶ意欲と生涯学びつづける姿勢を獲得する。
- ⑤ 知識人として現代社会を生きるためには、総じて人間性・社会性・国際性と生涯学習力を持つ必要があること（この全体は学士課程教育全体の課題であるが）を、課題研究や課題解決型学習、ディスカッション、プレゼンテーションなどの中から選択してアクティブラーニングの方式で実行した体験から理解できる。

3. 授業内容・方法（シラバス）

- ① 15回の授業構成
 - a. いくつかのユニットに分けるなどして、(1)教員の知識の提供や学生による調査と、(2)学生による考察の出力とが組み合わせられるサイクルを1ユニットの中に設定し、複数のユニットで15回の授業を構成する。
 - b. 授業内での学生による出力は、クリッカーによる授業展開の中への学生の反応のフィードバックというような比較的単純なものから、先行知識・先行経験の学生による自発的活用を促したり、グループワークやディベート、集団討論による議論の総括と発表、これに基づく諸見解の比較、学内外における体験型授業の実施、学生自らが教える場を設定したりと多様でありえる。
 - c. これを担当教員の専門性や教育経験の特性に応じて自主的自発的に設定することが期待される。
- ② 各回の授業の展開
 - a. 各授業担当者や担当者集団において検討する。
 - b. アクティブラーニングを活かすという視点から、オムニバス形式を取る場合は、その一貫性やアクティブラーニングの系統性に十分留意する。

4. 成績評価方法

- a. 定期試験やレポートのみに頼るのではなく、グループワークやディベート、集団討論による議論の総括や発表などの保存につとめて、自発的な学生の姿勢にたいする評価につとめる。このことによって、アクティブラーニングの成績が学生集団一律の評価に陥ることを避ける努力をする。
- b. あくまでも学力は知力だと考え、試験・レポート成績による個人の成績評価を行う場合には、導入した授業のアクティブラーニング的な性格との整合性を持たせてきっちりと説明する。

5. 参考資料

「現代社会の課題」部会の検討結果、及び詳細なシラバスの記入内容例については、下記 URL を参照のこと。

URL: <http://www.miyazaki-u.ac.jp/cess/undergraduate/doc/gendai.pdf>